

# 製剤と粒子設計学術賞公募

製剤と粒子設計に関する学術基盤ならびにシンポジウムの一層の充実と発展を計ることを目的に平成7年度より標記の学術賞を設け、選考規定を整備して、同賞の授与を行ってまいりました。昨年度同様、一層整備した学術賞規程に基づき、下記の通り本賞の選考を行います。選考規程にかなった候補者のご推薦の程、よろしくお願い致します。

## 記

### 製剤と粒子設計学術賞

- 授賞候補対象 国籍、年齢、所属、自薦、他薦を問わない  
製剤と粒子設計分野において優れた業績を達成した研究者であること
  
- 応募の方法 以下を提出する
  - i) A4用紙に候補者の1. 氏名、2. 所属、3. 職名、4. 連絡先、5. 業績を表すタイトルと業績リスト、6. 自薦他薦の種類（他薦の場合は推薦者名を記載）を記したもの
  - ii) 自薦の場合は申請者以外の推薦書、他薦の場合は推薦理由書 1通
  - iii) 略歴
  - iv) 業績を最もよく表す論文の別刷り（3報以内、コピー可）
  
- 応募及び連絡先 粉体工学会製剤と粒子設計部会事務局  
〒502-1196 岐阜市大学西 1-25-4  
岐阜薬科大学 製剤学研究室内  
製剤と粒子設計部会事務局  
TEL・FAX 058-230-1022  
e-mail : ryuushi-sekkei2005@cream.plala.or.jp
  
- 応募締切 平成25年4月末日

なお、提出された書類は返送しません。

以上

資料: 学術賞受賞者一覧(所属は受賞時のもの)

- 平成7年度 林 山陽(Veterans General Hospital Taipei)
- 平成8年度 山本恵司(千葉大学薬学部)
- 平成9年度 岡田弘晃(武田薬品工業)
- 平成10年度 辻 孝三(アグロス)
- 平成11年度 James W. McGinity(The University of Texas at Austin)
- 平成12年度 小林征雄(田辺製薬)
- 平成13年度 H.Leuenberger(University of Basel)
- 平成14年度 福森義信(神戸学院大)
- 平成15年度 P. YORK(University of Bradford)
- 平成16年度 中村康彦(大日本製薬)
- 平成17年度 受賞辞退により該当者なし
- 平成18年度 崔福德(瀋陽薬科大学)
- 平成19年度 中上博秋(第一三共)
- 平成20年度 寺田勝英(東邦大学)
- 平成21年度 Jörg Kreuter(Goethe-University)
- 平成22年度 岩本清(エーザイ)
- 平成23年度 高山幸三(星薬科大学)
- 平成24年度 Anthony J. Hickey(University of North Carolina)

## 製剤と粒子設計学術賞選考規定(抜粋)

(名称) 製剤と粒子設計学術賞

(目的) 製剤と粒子設計の学術研究及び技術向上を目的として、医薬品製剤、化粧品、農薬、その他化学工業製品において上記目的に関わる学術基盤または有益な新技術を構築し、社会への還元を図る。

(学術賞の対象者) 国籍、年齢、所属、自薦、他薦を問わない。製剤と粒子設計分野において優れた業績を達成した研究者に対する賞である。受賞は原則として毎年一件一名以内とする。

(候補者の募集) 内規に従い公募する。

(受賞者の講演) 国内受賞者は“製剤と粒子設計シンポジウム“で受賞内容を中心とした講演を行う。外国居移住者の場合は、“製剤と粒子設計シンポジウム“あるいは日本国内のそれに準ずる公開の場で講演を行う。

(褒章) 賞状および副賞として50万円を受賞者に贈る。外国人受賞者の場合、渡航費・滞在費を考慮する。

(表彰と公表) 原則として、受賞者講演の場で行い、製剤と粒子設計部会長名で表彰する。ファームテックジャパン誌のPPD欄で受賞者名および受賞講演内容を公表する。

平成 7 年 4 月制定

平成 18 年 2 月改訂

平成 18 年 6 月改訂